

挑戦と克服

山形県新庄市立日新中学校

三年 海藤 汐 恩

苦手なことは、人と話をする事。

たった十五年の人生で、いつの間にか僕に染みついてしまったコンプレックス。話題が豊富で屈託のない人が羨ましいと思っていた。

僕は一年生の後期から生徒会執行部に入り、先輩方と活動してきた。地域で最も規模の大きな僕たちの学校では、SNSなどのトラブルが問題となっていた。二年生の前期、先輩方が全校生徒に実態アンケートを取り、担当学年の集計と結果の考察が僕たち二年生執行部員の仕事になった。淡々と集計作業に徹するのは得意だ。人と話をするよりも気が楽だからだ。先輩方はその結果から、各学級で人間関係に関する一分間の話し合い（ミニニッツプロジェクト）を設けるなど、問題解決に努めてくれた。

秋、生徒会役員改選。僕は副会長に立候補した。会長職にも興味はあったが、人前で話をする事、多い会長より、支える副会長が自分には適任だと思っただけだ。この時点で僕は、自ら積極的に活動することが少なく、中心的な役割は他の人に任せることが多かった。

年が明けた一月半ば、転機が訪れた。先生が持ってきた「全国いじめ問題子供サミット」への参加。

先生は、僕ともう一人の副会長を参加させてくれた。初めての文科省。秋の修学旅行とは違う東京の空気が、全国から集まってきた小中学生との意見交換——すべてが新鮮で刺激的だった。学校ごとにいじめをなくするための取り組みを発表したり、そのためにはどのようなことが必要かを話し合ったりして、とても有意義な時間だった。「こんなにも多くの人が、いじめについて真剣に考えているのか」と、強心を打たれ、普段よりも積極的に質問をしたり、意見を出した。普段よりも積極的に質問をしたり、意見を出したりできたと思う。そして、今、自分が受けているこの刺激を、学校のみならずにも伝えたいと思う。長く眠っていたもう一人の自分が目覚めてゆくようだった。

学校に戻ると、僕は早速行動を開始した。事務局長に掛け合って生徒会だよりの号外「いじめ撲滅NEWS」を発行、サミットの様子を全校生徒に報告した。また、次年度の「チーム日新（小六、中一、中二）」で集会を行い、サミットで学んできたことを共有した。三つの学年を縦割りにしたグループを作り、クラスや学校の現状について、どうすればみんなにとって過ごしやすい学校になるかを話し合った。予想以上にいじめについて真剣に考えてくれる人が多く、学年を越えて仲が深まったグループもあった。入学を間近に控えた六年生には、今抱えている不安や中学校に望むことも出してもらい、来年度の生徒会重点に盛り込む方針を打ち出した。また、サミットで得た他校の良い活動を取り入れたり、先輩方が設けたミニニッツプロジェクトをエンカウスターに発展させたりと、生徒主体の活動をどんどん実施した。特にミニニッツは人間関係の向上を目的としたミニエンカウスターで、日新中学校独自の活動だ。執行部が各クラスに赴くので、完全に生徒主導で行っている。この活動は少しずつ実を結び、楽

しみにしてくれる後輩たちもいて、素直に嬉しかった。授業での教え合いが活性化したクラスもあった。僕自身、執行部の仲間や先生と現状を分析したり計画を立てたり、総括をしたりするのがとても楽しかった。部活と勉強との両立は本当に大変だけれど、その分、達成感があつて時間の密度が濃くなった。この頃から僕は、何事にも積極的に取り組むことが多くなった。恐らく全国サミットが、僕にとって大きな挑戦だったからだろうと思う。その後も卒業式で送辞を読んだり、運動会の実行委員長を務めたりと、一年前の自分からは想像もできない大きな仕事に何度も挑戦した。

今年七月、僕たちは、県内の小中学生が集まり、いじめや人間関係の改善について発表し合う「スマイルサミット」に招かれた。全国での発表が評価され、僕はパネリストという重要な役を任された。ステージの上でのアドリブは初めてだったので、もちろん緊張したが、物怖じせず、自分の意見をしっかりと発表できた。人前に立つことさえ苦手だった僕が、今では全員の仲間の前で話ができるほどにコンプレックスを克服している。なぜここまで変わったのか本当に不思議だ。確かに生徒会活動を通して僕は成長した。でも、今思うのは、僕一人で成長できたのではないということ。サミットという大きな刺激はあつたけれど、僕を信じてチャンスくれた先生、一緒に切磋琢磨できる仲間、みんながいたからこそ僕は挑戦し、克服し、成長することができた。

これからも僕の人生は続いてゆく。何度も何度も壁におち当たるだろう。でも、苦手意識を理由にせず、今回のように挑戦を繰り返して克服し、一人の人間として豊かに成長できるような毎日を創りたい。

作文を書くに当たって

僕が一番伝えたいことは、苦手だから諦めるのではなく、「苦手でも挑戦しようとする姿勢」が大切だということです。僕はこの一年で、自信と前向きさを得ました。「挑戦」するからこそ、「克服」への道が見えてきます。

この作文を読んだ人が、僕と同じように挑戦し、少しずつ前進するきっかけをつかんでくれたら嬉しいです。